

松岡議員（自民議連）

平成 29 年 2 月 28 日

答 弁 実 録

（ 教 育 委 員 会 ）

（問）競技スポーツの推進に向けた県の取組について

体育科を設置していない県もある中で、本県においては、県東部と西部の 2 校に体育科を設置した、その目的は何だったのか。その目的を踏まえ、当面の目標である東京オリンピックに向け、また、その後も見据えながら、体育科を有する高等学校の環境整備にどのように取り組んでいこうと考えているのか、教育長の所見を伺う。

（答）

県立高校の体育科につきましては、体育・スポーツの振興発展に寄与できる人材の育成と競技力向上を図る目的で、県西部と東部にそれぞれ設置したものでございます。

体育科におきましては、神辺旭高校は陸上競技、バレーボール、ソフトテニスなどを、広島皆実高校は陸上競技、サッカー、バスケットボールなどを重点種目と定め、これまで体育館を増設し、全天候型走路を整備したほか、各学校の特色を踏まえ、神辺旭高校には、平成 18 年度に学校敷地を新たに造成してテニスコートを増設し、広島皆実高校には、平成 25 年度に人工芝のグラウンドを整備するなど施設の充実を図ってまいりました。

また、優秀な指導者を配置し、用具の整備を行うとともに、強化合宿に要する経費についても支援を行い、競技力の強化を図っております。

このほか、競技人口の少ない競技の充実を図るため、神辺旭高校をフェンシングの競技力拠点校に指定し、コーチの招へいや用具の整備などを行い、競技力の強化を図っております。

こうした取組によりまして、体育科からオリンピック選手や Jリーグ・Vリーグで活躍する選手を輩出するとともに、本年度のインターハイにおきましては、神辺旭高校の生徒が、陸上競技男子 100m で 2 位となるなど、成果をあげているところでございます。

今後も、県立高校体育科から、全国大会や世界大会で活躍する選手を輩出できるよう、引き続き競技力の向上に必要な優秀な指導者の配置や施設・設備の整備充実など、有望な生徒が進学を希望するような環境整備を図ってまいりたいと考えております。